

くなれば往々中途で迷つてくるからである。一度で仕上げやうとするには畫面は大きくないのが宜い、大きい畫面を急いで仕上げては毎も物足りない處ができる。また幾度もかゝつて仕上げた寫生には往々考案の錯雜が生じて畫題の明確を缺くやうになる。

氏の描法は實際的で、常識と技術の熟練と相俟つて行くのである、戶外寫生は皆畫室内で仕上げるべき大作の下地であるから、元より充分に自然の趣を現はしたものでなければならぬから其目的を以て寫生するのである。

氏が通常使用する繪具はコバルト、セルーリウム、インヂゴ、オルトラマリンアツシユ、イエローオーカー、ロシエンナ、レモンイエロー、オーレオリン、カドミウム二號、カドミウムオレンヂ、ライトレツド、ヴァミリオン、ロースマダー、ピンクマダー、プラオンマダー、ローアンバー、バートシエンナ、チヤーコールグレー、及び時としては、フレンチブリュー、リヤルオルトラマリン、コバルトグリーン、コバルトヴァイオレット、ヴァンダイクブラオン等である。

〔ボードレー氏著「水彩畫實習書」より〕

因に、兩頭の筆は此頃文房堂で試めしに製作中でありませう、工合よく出来たならばまたお知らせ致しませう。欽、

*

*

*

*

*

逓信部内繪畫展覽會洋畫部受賞者

一等賞(金牌)	「夜の女」(習作)	(水彩油)	吉田豊
二等賞(銀牌)	「涼味」	(油繪)	吉原謙
同	「日比谷の朝」	(油繪)	譽田各男
三等賞(銅牌)	「白い傘」	(油繪)	石田貢
同	「大崎町の端」	(油繪)	杉田一郎
同	「或夜の机上」	(油繪)	彦坂楊亮
褒狀	「靜物」	(油繪)	吉田文聰
同	「百合」	(油繪)	江野口啓造
同	「葡萄」	(水彩畫)	森貫一郎

去る五月二十五日ロンドンローヤルアルバートドック出帆の安藝丸で歸朝の途につかれた丸山晚霞氏は、去月九日無事神戸に上陸せられ、同じき十日早朝歸京された。

當日新橋驛で盛な歓迎があつた。

氏の住居は本郷區駒込神明町十四番地である。